

# ことばと政治

いま、哲学は人間を  
どう問うているのか

2019年

10月19日 [SAT]

受講料  
無料

事前申込  
不要

13:00~16:00

明治大学駿河台キャンパス  
グローバルフロント1階 グローバルホール

## 第1部 講演

森 一郎 氏(東北大学教授)

『〈応答して語る存在者〉のゆくえ —アーレントからハイデガーへ』

西山 雄二 氏(首都大学東京准教授)

『嘘をめぐる政治と哲学』

古田 徹也 氏(東京大学准教授)

『〈言葉がしっくりくる〉とはどういうことか —言語・懐疑・プロパガンダ』

## 第2部 ディスカッション・質疑応答



森 一郎



西山 雄二



古田 徹也

# ことばと政治 いま、哲学は人間を どう問うているのか

インターネットなどの情報メディアの発達により、「ことば」が社会生活においてかつてないほどに力を持ち、政治のありかたをも大きく変える時代になりました。

他方で、西洋哲学においては、古代ギリシャ時代にはすでに人間は「ことばをもつ動物」と定義されていました。また、「ことばをもつ動物」であることと「政治(ポリス)的動物」であることの深い結びつきが考察されてきました。

「ベンは剣よりも強し」という言葉があるように、戦争でさえも、ことばによって始まりことばによって終わります。ことばが強大さを増すと同時にことばの貧困も嘆かれる現在。ウイトゲンシュタイン、ハイデガー、アーレント、デリダなどに詳しい哲学者たちが、現代の世界へのメッセージを伝えます。

## 講師プロフィール



森 一郎

東北大学情報科学研究科教授。専門は、ニーチェ、ハイデガー、アーレント。著書:『死と誕生』(東京大学出版会、2008年)、『死を超えるもの』(東京大学出版会、2013年)、『世代問題の再燃』(明石書店、2017年)、『現代の危機と哲学』(放送大学教育振興会、2018年)、『ハイデガーと哲学の可能性』(法政大学出版局、2018年)。訳書:アーレント『活動的生』(みすず書房)、ニーチェ『楽しい学問』(講談社)、ハイデガー『技術とは何だろうか』(講談社)ほか。



西山 雄二

首都大学東京人文科学研究科准教授。専門はジャック・デリダなどの現代フランス思想。『哲学への権利』(勁草書房、2011年)、『哲学と大学』(編著、未來社、2009年)、『カタストロフィと人文学』(編著、勁草書房、2014年)、『終わりなきデリダ—ハイデガー、サルトル、レヴィナスとの対話』(編著、法政大学出版局、2017年)ほか。現在の関心は、ジャック・デリダ後年の講義録における脱構築思想の変遷。

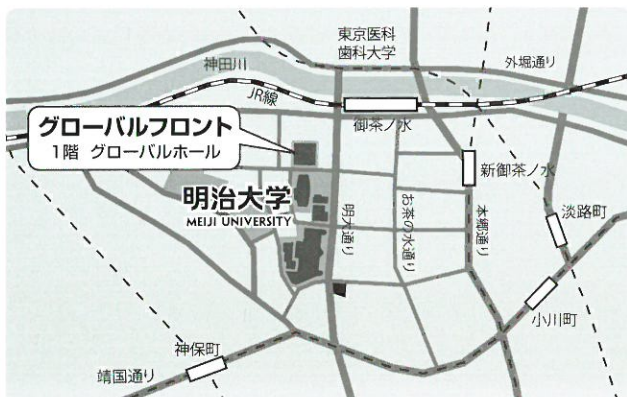


古田 徹也

東京大学大学院人文社会系研究科准教授。専門は、ウイトゲンシュタイン、現代哲学・倫理学。『不道徳的倫理学講義—人生にとって運とは何か』(ちくま新書、2019年)、『ウイトゲンシュタイン 論理哲学論考』(角川選書、2019年)、『言葉の魂の哲学』(講談社選書メチエ、2018年)、『それは私がしたことなのか—行為の哲学入門』(新曜社、2013年)ほか。日本倫理学会評議員。現在の関心は、言語と懐疑論の関係、運と道徳の関係など。

## プログラム

13:00~13:10	司会挨拶	池田 喬(明治大学文学部准教授)
	開会の辞	豊川 浩一(人文科学研究所所長)
13:10~13:40	第一部	講演 森 一郎氏(東北大学教授) 『〈応答して語る存在者〉のゆくえ —アーレントからハイデガーへ』
13:40~14:10		西山 雄二氏(首都大学東京准教授) 『嘘をめぐる政治と哲学』
14:10~14:40		古田 徹也氏(東京大学准教授) 『〈言葉がしっくりくる〉とはどういうことか —言語・懐疑・プロバガンダ』
14:40~14:55	休憩	(質問シートの記入)
14:55~15:55	第二部	ディスカッション・質疑応答
15:55~16:00	閉会挨拶	池田 喬(明治大学文学部准教授)



### アクセス

- JR中央線・総武線、東京外口丸ノ内線/御茶ノ水駅 下車徒歩約3分
- 東京外口千代田線/新御茶ノ水駅 下車徒歩約5分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京外口半蔵門線/神保町駅 下車徒歩約5分

### 場所

明治大学駿河台キャンパス  
グローバルフロント1階 グローバルホール

### お問合せ

03-3296-4135  
jinbun@mics.meiji.ac.jp

明治大学人文科学研究所